

和歌山県感染症報告<速報>

Wakayama Infectious Diseases Report (WIDR)

2013年第29号(週報)

2013年第29週(7月15日~7月21日)

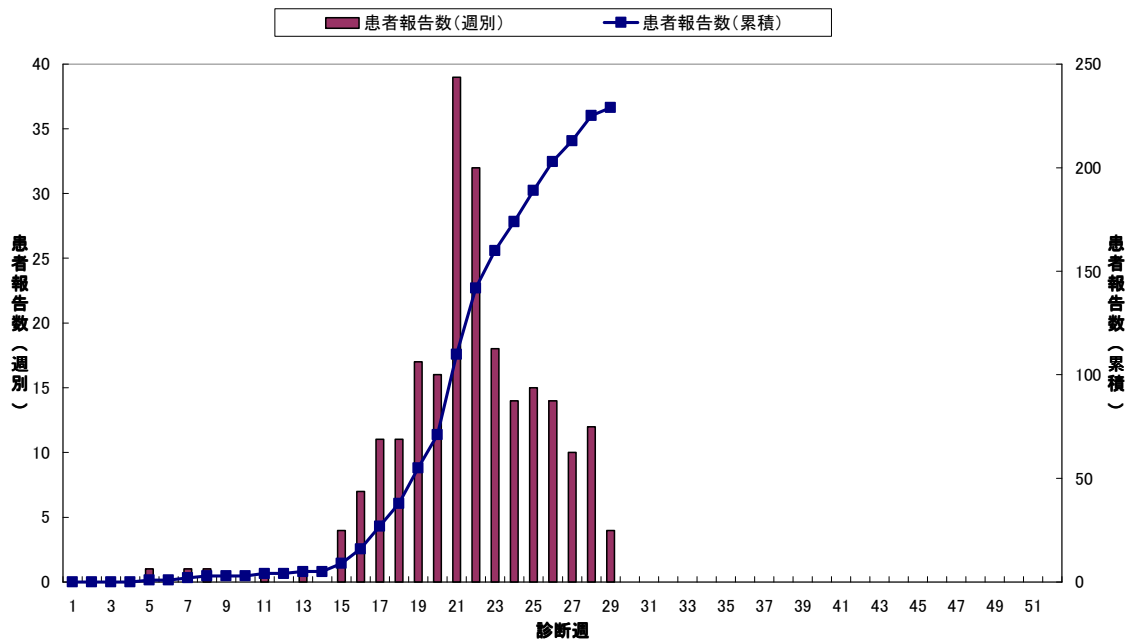
◆◆ 注目すべき感染症の動向 ◆◆

一 風しん : 報告数は減少傾向だが、今後も注意が必要!! 一

風しんは、風しんウイルスによっておこる急性の発疹性感染症で、流行は春先から初夏にかけて多くみられます。潜伏期間は2~3週間で、主な症状として発疹、発熱、リンパ節の腫れが認められます。

和歌山県全体の第29週の患者報告数は4人(和歌山市保健所管内3名、新宮保健所管内1名)、2013年の累積患者報告数は229人となっています。週別の報告数は第21週の39人をピークに減少傾向となっていますが、引き続き注意が必要です。

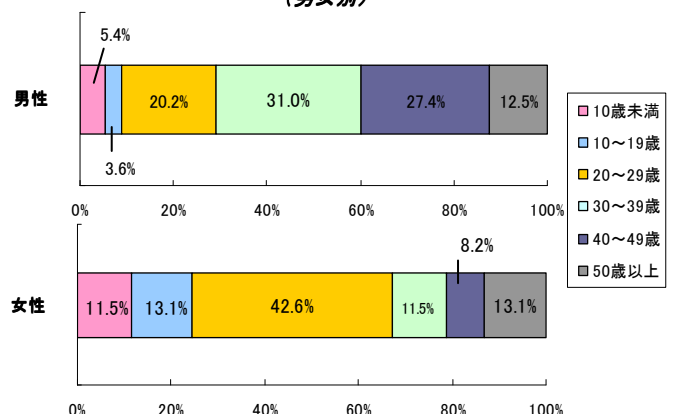
風しん(和歌山県)



男女別では男性が168人、女性が61人と男性が多くなっており、年代別では、男性が30~40代が多いのに対して、女性では20代が最も多くを占めています。

また、保健所では和歌山市保健所管内が176名と全体の76.9%を占めています。次いで、湯浅保健所管内が14人(6.1%)、海南保健所管内が13人(5.7%)となっています。

県内における年代別風しん患者累積報告数の割合(男女別)



国立感染症研究所感染症疫学センターの感染症発生動向調査によると、全国の第28週までの累積患者報告数は12,832人となっています。全国的にも患者数報告数は減少傾向にあり、首都圏や近畿地方といった流行の中心となっていた地域でも減少傾向となっています。

全国の風しんに関する統計（第28週分）はこちら：国立感染症研究所HP
<http://www0.nih.go.jp/niid/idsc/idwr/diseases/rubella/rubella2013/rube13-28.pdf>

妊婦、特に妊娠初期の女性が風しんにかかると、胎児がウイルスに感染し、先天性風しん症候群がおこる可能性があります。

風しん及び先天性風しん症候群についてはこちら：国立感染症研究所HP（風しんQ&A）
<http://www.nih.go.jp/niid/ja/rubellaqa.html>

妊娠中の女性は予防接種が受けられないため、妊婦の周りにいる方（妊婦の夫、子ども、その他の同居家族等）は、風しんを発症しないように予防することが重要となります。

【予防のポイント】

- ・風しんの定期接種対象者は、予防接種を受けましょう。
1歳児及び、小学校入学前1年間の幼児は、多くの市区町村において、無料で受けられます。
- ・下記の(1)～(3)のうち、抗体価が十分であると確認できた方以外の方は任意での予防接種を受けることをご検討ください。
 - (1) 妊婦の夫、子ども及びその他の同居家族
 - (2) 10代後半から40代の女性（特に、妊娠希望者又は妊娠する可能性の高い方）
 - (3) 産褥早期の女性

風しんワクチン接種に対する助成制度がスタート！！

和歌山県では、県内の19歳以上50歳未満の妊娠を希望する女性と妊婦の夫を対象とした風しんワクチン接種費用の助成を開始しました。

詳しくは、現在お住まいの各市町村の保健福祉関係課へお問い合わせください。

助成期間：平成25年5月21日～平成26年3月31日

一 手足口病 : 報告数急増！！5つの保健所管内で警報レベル基準値を超える！！ 一

手足口病は、口腔、手及び足等に水疱性の発疹ができるウイルス感染症で、乳幼児を中心に夏季に流行が見られます。原因となるウイルスは、主にコクサッキーウイルス A16、エンテロウイルス 71 で、その他コクサッキーウイルス A6 等が原因となることもあります。

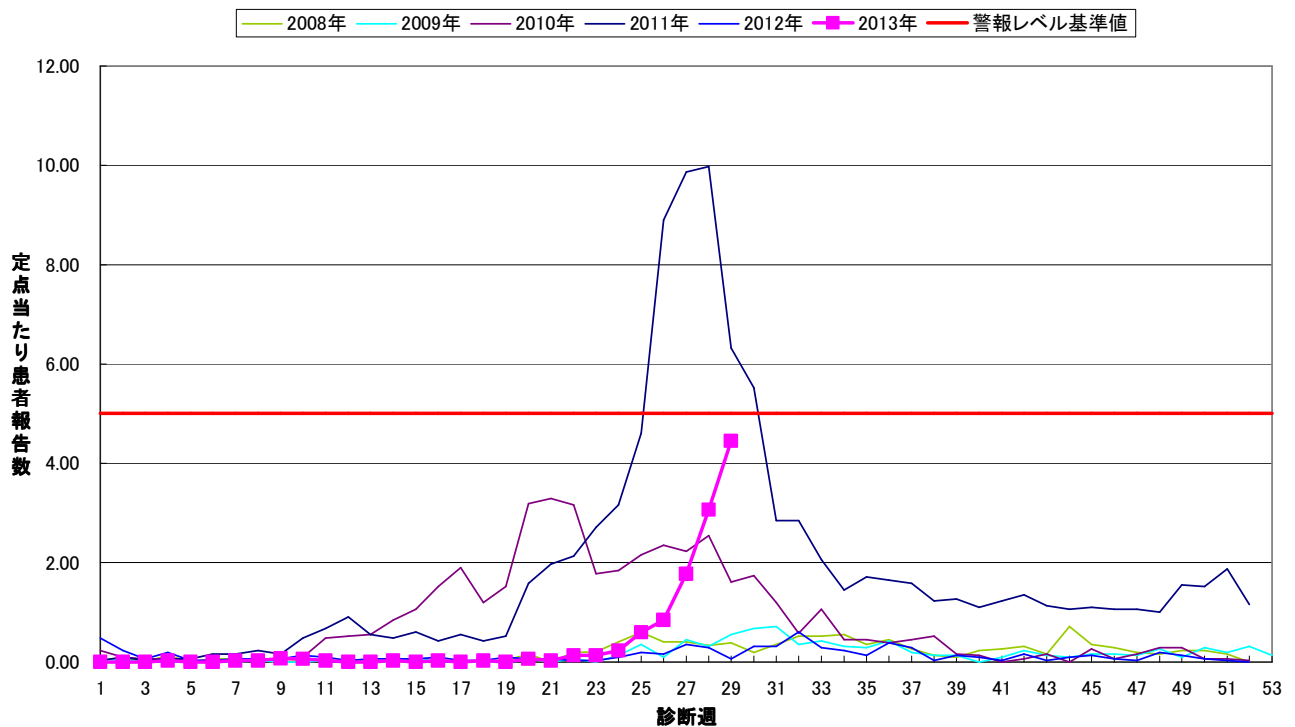
今週の和歌山県全体の定点当たり患者報告数は 4.45 人（前週：3.06 人）と 3 週連続で大きく増加しました。ほとんどの保健所管内で報告数は増加しており、今週は和歌山市、岩出、御坊、田辺保健所管内が警報レベル基準値を超えています。また、橋本保健所管内の報告数はやや減少したものの引き続き終息基準値を超えています。

大きな流行となった 2011 年に次ぐ流行となっており、今後の動向に注意が必要です。

全国的にも大きな流行となっており、第 28 週の全国の定点当たり患者報告数は 7.01 人となっています。特に、関東地方や九州地方で患者報告数が多い状況です。

この感染症の感染経路は、飛沫感染、接触感染及び糞口感染ですので、感染予防のためには流水と石けんで十分に手洗いをを行うこと、またタオルの共用を避けることが大切です。

手足口病(和歌山県全体)



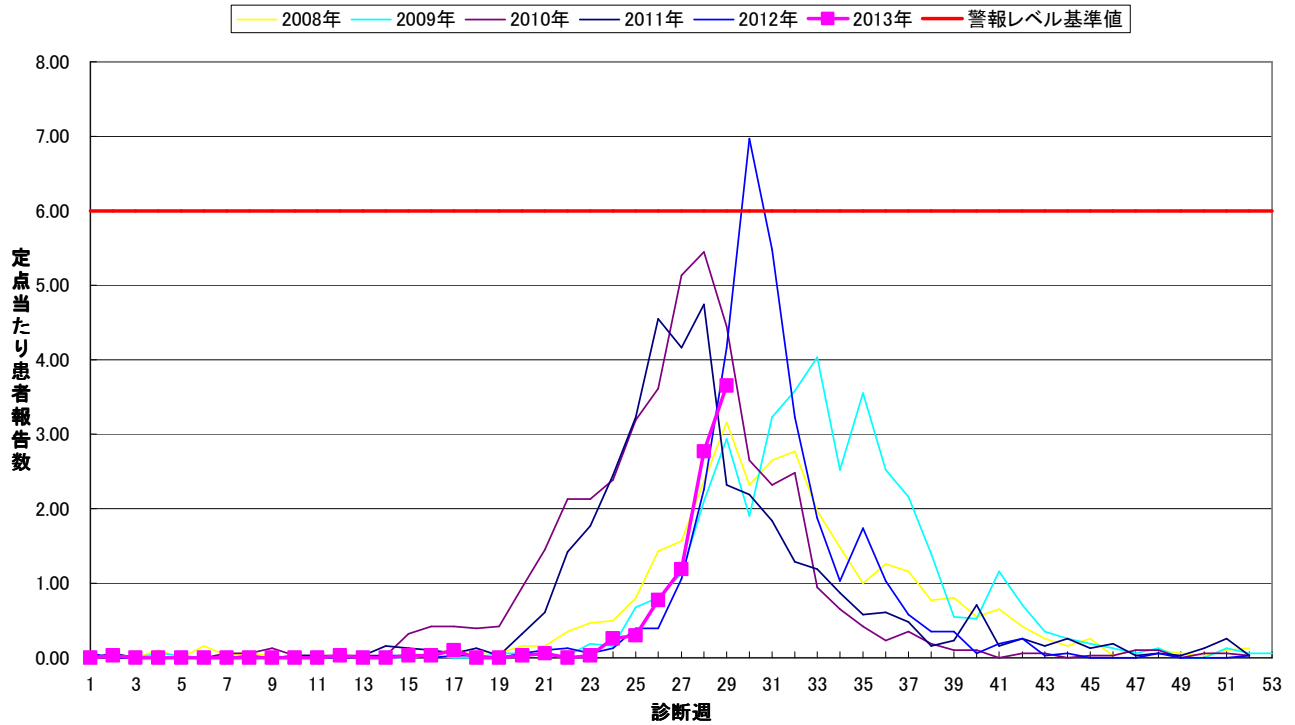
一 ヘルパンギーナ : 湯浅保健所管内で警報レベル基準値を超える！！ 一

ヘルパンギーナも手足口病と並んで、一般的に夏かぜと呼ばれる感染症の代表的なもので、原因となるウイルスはコクサッキーウイルス A4、6、10 等が中心です。

今週も県全体の患者報告数は増加しており、流行期に入っています。特に、湯浅保健所管内では 7.00 人（前週：3.00 人）と大きく増加し、警報レベル基準値を超えました。その他、和歌山市、岩出保健所管内でそれぞれ 5.44 人（前週：4.67 人）、5.25 人（前週：3.50 人）と多くなっています。

感染予防のためには手足口病と同様に流水と石けんで十分に手洗いをを行うこと、またタオルの共用を避けることが大切です。

ヘルパンギーナ(和歌山県全体)



定点把握感染症の警報・注意報レベル基準値について

疾病	警報レベル		注意報レベル	疾病	警報レベル		注意報レベル
	開始基準値	終息基準値	基準値		開始基準値	終息基準値	基準値
インフルエンザ	30	10	10	伝染性紅斑	2	1	-
咽頭結膜熱	3	1	-	百日咳	1	0.1	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	4	-	ヘルパンギーナ	6	2	-
感染性胃腸炎	20	12	-	流行性耳下腺炎	6	2	3
水痘	7	4	4	急性出血性結膜炎	1	0.1	-
手足口病	5	2	-	流行性角結膜炎	8	4	-

基準値はすべて定点当たりの報告数です。注意報の「-」は対象としないことを意味します。

◆◆ 全数把握感染症について ◆◆

<届出状況>

- 1) 当該週に診断された感染症のみ掲載しています。
 - 1類感染症：報告はありませんでした。
 - 2類感染症：結核 6名
 - 3類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 1名
 - 4類感染症：報告はありませんでした。
 - 5類感染症：風しん 4名

- 2) 第1週から当該週までに診断された患者報告数を掲載しています。

疾病名	報告数
結核	172
腸管出血性大腸菌感染症	8
つつが虫病	7
デング熱	2
日本紅斑熱	4
レジオネラ症	3
アメーバ赤痢	4
ウイルス性肝炎	2
クロイツフェルト・ヤコブ病	4
後天性免疫不全症候群	7
侵襲性インフルエンザ菌感染症	1
侵襲性肺炎球菌感染症	1
梅毒	7
風しん	229

◆◆ 5類定点把握感染症（週報）について ◆◆

<各保健所の警報注意報レベル状況>

警報レベル

手足口病（和歌山市、岩出、橋本、御坊、田辺保健所管内）
ヘルパンギーナ（湯浅保健所管内）

注意報レベル

ありません。

<年齢階級層別の患者報告数（和歌山県）>

（インフルエンザ）

		総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2	3	4	5	6	7	8	9	10～14	15～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80歳～
インフルエンザ	報告	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	定当	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

（小児科定点対象感染症）

		総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2	3	4	5	6	7	8	9	10～14	15～19	20歳～
RSウイルス感染症	報告	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	定当	0.03	-	-	0.03	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	報告	7	-	-	-	2	1	3	-	1	-	-	-	-	-	-
	定当	0.23	-	-	-	0.06	0.03	0.1	-	0.03	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	報告	11	-	-	-	1	-	1	2	3	2	1	-	1	-	-
	定当	0.35	-	-	-	0.03	-	0.03	0.06	0.1	0.06	0.03	-	0.03	-	-
感染性胃腸炎	報告	68	2	2	7	6	12	7	5	6	3	5	3	8	-	2
	定当	2.19	0.06	0.06	0.23	0.19	0.39	0.23	0.16	0.19	0.1	0.16	0.1	0.26	-	0.06
水痘	報告	21	1	2	6	2	4	2	1	-	2	1	-	-	-	-
	定当	0.68	0.03	0.06	0.19	0.06	0.13	0.06	0.03	-	0.06	0.03	-	-	-	-
手足口病	報告	138	2	17	34	31	20	12	11	4	1	-	3	1	-	2
	定当	4.45	0.06	0.55	1.1	1	0.65	0.39	0.35	0.13	0.03	-	0.1	0.03	-	0.06
伝染性紅斑	報告	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	定当	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん	報告	25	-	11	13	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	定当	0.81	-	0.35	0.42	0.03	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	報告	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
	定当	0.03	-	-	-	-	-	0.03	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	報告	113	1	13	24	22	17	15	10	4	3	2	1	1	-	-
	定当	3.65	0.03	0.42	0.77	0.71	0.55	0.48	0.32	0.13	0.1	0.06	0.03	0.03	-	-
流行性耳下腺炎	報告	2	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-
	定当	0.06	-	-	-	-	-	-	0.03	-	-	-	-	0.03	-	-

<保健所別の患者報告数（和歌山県）>

(-:患者報告がない、…:保健所管内に定点が存在しない)

		和歌山市	海南	岩出	橋本	湯浅	御坊	田辺	新宮	串本
インフルエンザ	報告	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	定当	-	-	-	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	報告	-	-	-	-	-	-	1	-	-
	定当	-	-	-	-	-	-	0.25	-	-
咽頭結膜熱	報告	3	-	2	-	-	-	2	-	-
	定当	0.33	-	0.5	-	-	-	0.5	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	報告	3	-	4	1	-	-	3	-	-
	定当	0.33	-	1	0.25	-	-	0.75	-	-
感染性胃腸炎	報告	48	4	11	-	2	-	2	1	-
	定当	5.33	2	2.75	-	0.67	-	0.5	0.5	-
水痘	報告	7	4	3	2	-	-	5	-	-
	定当	0.78	2	0.75	0.5	-	-	1.25	-	-
手足口病	報告	50	2	22	19	10	14	20	1	-
	定当	5.56	1	5.5	4.75	3.33	7	5	0.5	-
伝染性紅斑	報告	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	定当	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん	報告	12	1	4	-	7	1	-	-	-
	定当	1.33	0.5	1	-	2.33	0.5	-	-	-
百日咳	報告	-	-	1	-	-	-	-	-	-
	定当	-	-	0.25	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	報告	49	4	21	9	21	2	6	1	-
	定当	5.44	2	5.25	2.25	7	1	1.5	0.5	-
流行性耳下腺炎	報告	-	-	1	-	-	-	1	-	-
	定当	-	-	0.25	-	-	-	0.25	-	-
急性出血性結膜炎	報告	-	…	…	…	…	…	-	…	…
	定当	-	…	…	…	…	…	-	…	…
流行性角結膜炎	報告	2	…	…	…	…	…	-	…	…
	定当	0.67	…	…	…	…	…	-	…	…
細菌性髄膜炎	報告	-	…	-	-	-	-	-	-	…
	定当	-	…	-	-	-	-	-	-	…
無菌性髄膜炎	報告	-	…	-	-	-	-	-	-	…
	定当	-	…	-	-	-	-	-	-	…
マイコプラズマ肺炎	報告	-	…	-	-	-	3	-	-	…
	定当	-	…	-	-	-	3	-	-	…
クラミジア肺炎	報告	-	…	-	-	-	-	-	-	…
	定当	-	…	-	-	-	-	-	-	…

和歌山県感染症情報（WIDR）2013年第29号

発行日：平成25年7月25日

発行元：和歌山県感染症情報センター

（和歌山県環境衛生研究センター内）

和歌山市砂山南3-3-45

TEL 073-423-9570

E-mail e0318011@pref.wakayama.lg.jp

URL <http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/031801/kishukko>

（お問い合わせ先）

和歌山県福祉保健部健康局健康推進課

和歌山市小松原通一丁目1番地

TEL 073-441-2657

E-mail e0412003@pref.wakayama.lg.jp

このWIDRは感染症新法に基づいて実施されている感染症発生動向調査から作成しています。ここに掲載した情報はあくまでも速報であり、今後の調査結果で訂正される可能性がありますのでご注意ください。